

脱炭素アクションアンケート集計結果

佐賀から始める!
Climate Action!

今年度、当会の事業をご利用いただいた県民の方にアンケートを実施しました。SDGsのゴール13「気候変動に具体的な対策を」=Climate Action へ向けてわたしたちに“出来そうなことは何か”を、アンケートから読み解いていきます。

回答者：環境活動・イベント等助成事業参加者と県内の子どもエコクラブ 414名

脱炭素へむけた取組に対する意識

■簡単/実施済 ■できる ■頑張れる ■難しい ■無理 ■未回答

ちょっとした工夫で出来る簡単なことは頑張れば出来る方がほとんどなのに対して、費用や時間のかかる取組については、脱炭素のための効果が大きいながらも、難しいと考える方が多いようです。費用が多大、他の具体的な方法がわからないとなどの意見もありました。

生活の中でのこまめな節電や工夫（待機電力オフなど）

クール・ウォームビズ（季節に合わせた仕事着の着用）

簡単な省エネDIY（断熱シートを窓に貼るなど）

菜食デーの実施や食品の手前どりなど食での脱炭素

緑化(グリーンカーテン・植樹・敷地の緑地化等)

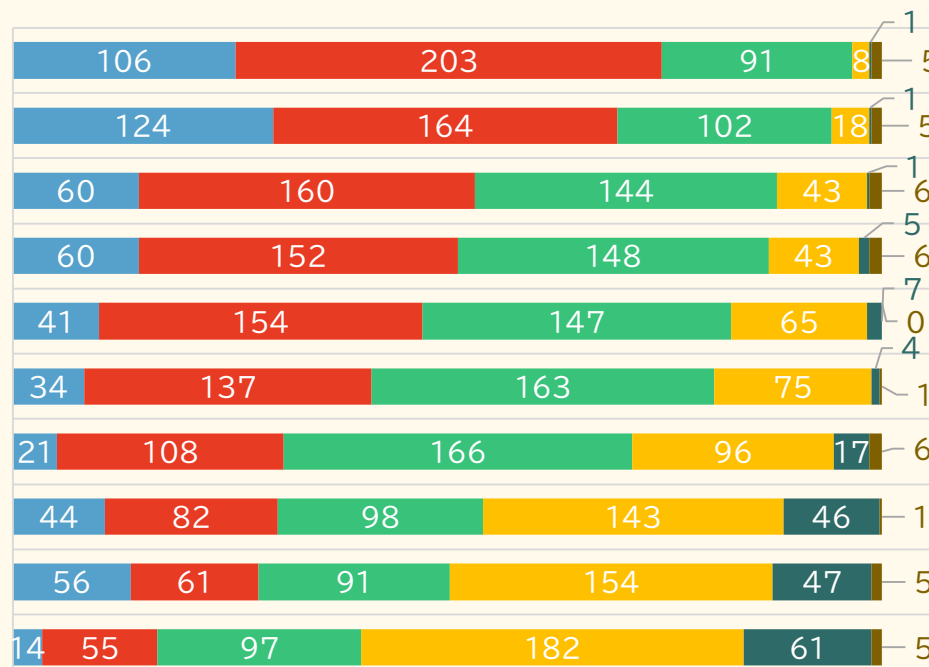
省エネ家電に買い替え

非電化製品の利用（土鍋調理・箒での掃除など）

エコ通勤（公共交通や徒歩自転車での通勤）

創エネ設備の設置(太陽光やエネファーム等)

建屋の省エネリフォーム



地球温暖化や気候変動への認識

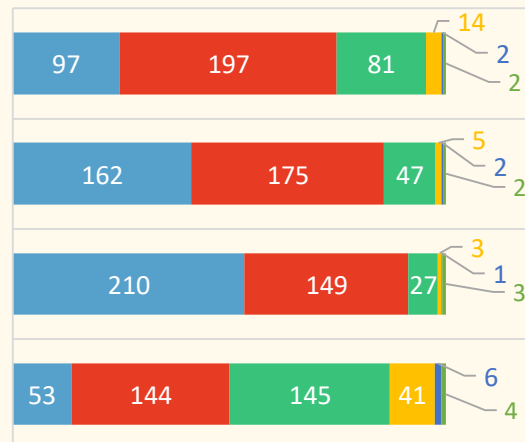
■強くそうおもう ■そう思う ■わからない
■あまり思わない ■まったく思わない ■未回答

地球温暖化や気候変動に日頃から関心がある

私たちの暮らしが地球温暖化や気候変動に関わっている

気象災害が年々悪化していて暮らしにも影響がある

地球温暖化やその影響はこれから軽減することができる

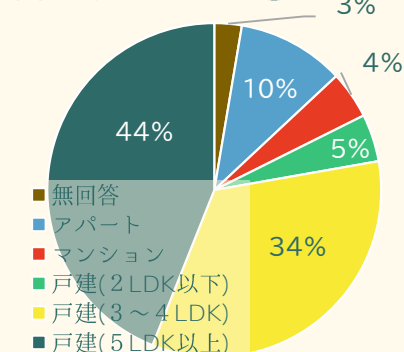


回答した方の半数以上が気象災害の暮らしへの影響を強く感じ、暮らしと地球温暖化が関わっていると思う人の割合も80%を超えています、半数近くの方が将来について楽観視できないと考えているようです。

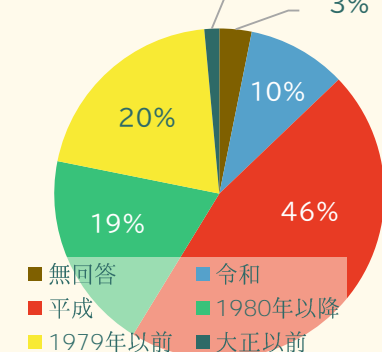
脱炭素に関わる生活環境について

私たちの暮らしの中で、特に脱炭素への影響の大きい住宅性能と移動手段。どこでどの位使用エネルギーを減らすことが出来るのかを見てみましょう。

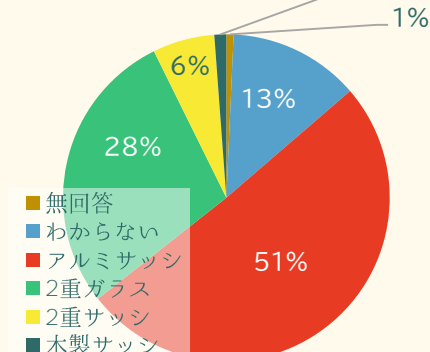
自宅建屋の形態



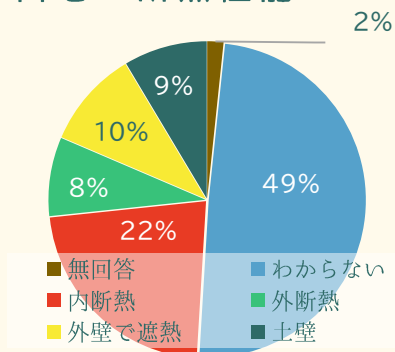
建設した年



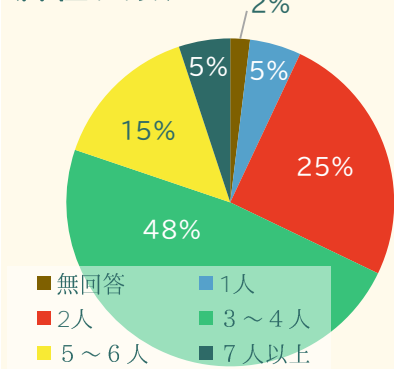
窓・サッシの種類



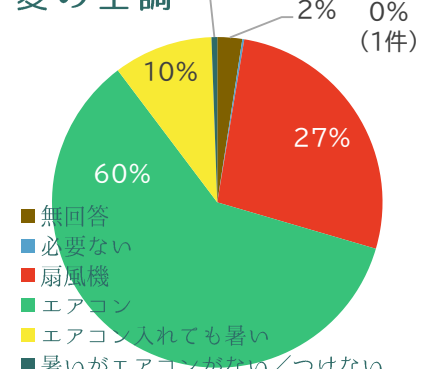
自宅の断熱性能



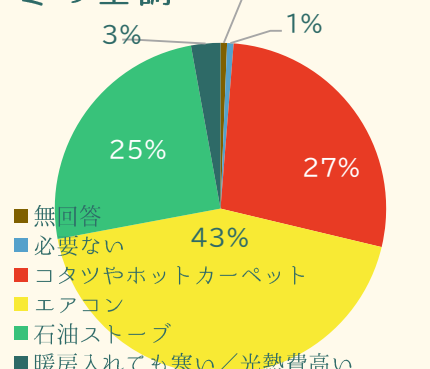
居住人数



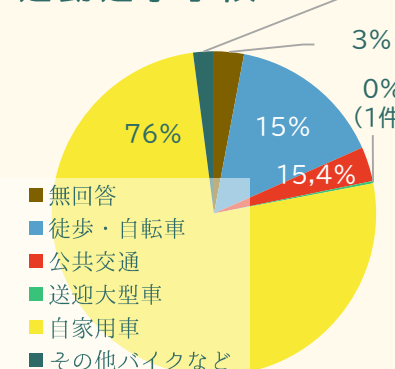
夏の空調



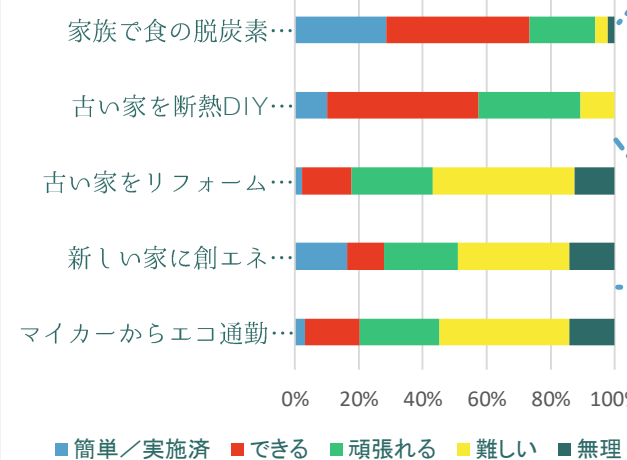
冬の空調



通勤通学手段



どの取組みなら出来そう？



食品ロスの解決や、菜食は温暖化をとめる効果大！

古い家でも本格的な改修は大変ですが、断熱DIYなら取り組みやすそうです！

エネルギー問題は悩みの種ですが、なんとかしたい！

佐賀のみんなで
脱炭素アクション！

佐賀県は家が広い傾向で、車社会、というイメージ通りの結果でした。半数以上が平成以降に建てられた住宅で、夏はエアコンと扇風機で快適に過ごせる一方、詳しく分析すると、冬は複数の暖房器具を併用している方が多く、使用する暖房器具も、築年数や間取りの違いにより特徴があり、古い家では石油ストーブとコタツ、新しい家ではエアコンが多く、暮らし方の変化があらわれていました。